

[前のページに戻る](#)

## 「発話」を活用した嚥下機能維持・向上ケアモデルの構築と有効性の検証

研究課題

研究課題/領域番号

25463587

研究種目

基盤研究(C)

審査区分

一般

研究分野

高齢看護学

研究機関

城西国際大学

研究代表者

井上 映子 城西国際大学, 看護学部, 教授 (80194059)

研究分担者

和野 千枝子 城西国際大学, 看護学部, 准教授 (90461839)  
 山田 万希子 城西国際大学, 看護学部, 助教 (40299897)  
 後藤 武 城西国際大学, 看護学部, 教授 (30406772)  
 大森 直哉 城西国際大学, 看護学部, 准教授 (60406767)

研究期間 (年度)

2013-04-01 - 2017-03-31

研究課題ステータス

交付(2014年度)

配分額 \*注記

サマリー



4,940千円 (直接経費：3,800千円、間接経費：1,140千円)

2015年度：2,340千円 (直接経費：1,800千円、間接経費：540千円)

2014年度：1,430千円 (直接経費：1,100千円、間接経費：330千円)

2013年度：1,170千円 (直接経費：900千円、間接経費：270千円)

キーワード

発話 / 高齢者 / 嚥下機能 / ストレス / 生理機能 / 免疫機能 / 心理的側面 / 反復唾液嚥下テスト / サーモグラフィー / 深部体温

研究実績の概要

平成26年度は、「発話」を活用した嚥下機能維持・向上ケアモデルを構築するために、「能動的発話」と「受動的発話」の、嚥下機能、生理機能、免疫機能、ストレス、心理的側面への影響を明らかにすることを目的とした。

対象は、地域在住の健康な60代70代の9名。クロスオーバー試験。介入はA群「受動的発話」(朗読:単音節数7000個)とB群「昔語り」の2群とし、各介入を20分間で設定した。介入の前と後、および介入後の安静後の3回測定した。評価指標は、1. 嚥下機能:①RSST3回目積算時間(健口くん:竹井機器工業株式会社)、②口腔内湿度(口腔水分計ムーカス:株式会社ライフ)、③舌圧(JMS舌圧測定器)、④呼吸筋力(ピークフローメータ:アセス)、⑤オーラルディアドキネシス(健口くん:竹井機器工業株式会社)、2. 生理機能:①深部体温と②血圧(ベッドサイドモニターPVM-2703:日本光電)、3. ストレス測定:①唾液アミラーゼモニターCM-21(ニプロ株式会社)②脳波(パルラックスF:FUTEK)、4. 心理:満足感、爽快感、楽しさ、意欲、不安感、疲労感の各6項目を0~100%で求めた。

解析方法は、2群比較および各群の前後比較である。

現在、データ取収を終えて解析中である。結果に基づき、施設入居虚弱高齢者を対象とした嚥下機能維持・向上を目指す「発話」モデルを作成し、今年度、臨地でこのモデルの有効性を検証する予定である。

現在までの達成度 (区分)

現在までの達成度 (区分)

やや遅れている

理由

①被験者への承諾、②データ取収の時間調整に時間を要し、また、優先しなければならない教育、業務処理の発生により、予定通りに研究を遂行することができなかった。

## 報告書 (2件)

2014 実施状況報告書(基金分)

2013 実施状況報告書(基金分)

## 研究成果 (2件)

	すべて	2014
	すべて	雑誌論文 学会発表
[雑誌論文] Effects of intervening vocalization on swallowing function in elderly individuals living in residential care facilities		2014
[学会発表] 嚥下機能における受動的「発話」の効果		2014
URL:	https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-25463587/	

公開日：2014-07-25 更新日：2014-07-04